

認知症を知ろう!

認知症の介護のポイント



認知症を完治させる有効な治療方法は、今のところまだ見つかっていませんが、症状を緩和したり、問題行動をコントロールしたりすることは可能です。下の表は、代表的な症状に対する介護のポイントですので参考にしてください。

また、認知症の対応で困ったときは、ひとりで抱え込まないで、ぜひ地域包括支援センターにご相談ください。



認知症の症状	接するときのポイント
ご飯を食べたのに、「ごはんは、まだですか？」など、何度も聞く。	「ちょっと作るのを手伝って」などといって、話題を変え、「忘れること」を利用する。
「今日は、何日だい？」など、時間や自分のいる場所がわからなくなり、何度も聞く。	同じ立場になり、不安を取り除く。大きな日めくりを用意して、一緒に日にちの確認をしましょう。
「あなたは、どなたですか？」など、家族や兄弟の顔が、わからなくなる。	<ul style="list-style-type: none"> ・否定をしないで、まず受け入れる。 ・落ち着いて静かに対応し、相手の目を見つめながら、話しかける。
「財布を盗まれた」「泥棒が入った」など、現実にはありえないことを固く信じ込む。	<ul style="list-style-type: none"> ・同じ感情を共有して、味方になる。 ・盗られ妄想の時などは、一緒に探し、本人が見つけれられるように導き、見つかった喜びを分かち合しましょう。
「虫がいる」「人が見える」など、騒いだり、何も聞こえないのに聞こえると訴える。	説得よりも、「私がいるから大丈夫ですよ」と、まず安心感を抱かせる。何日もこのような症状が続くときは、早めに専門医に相談しましょう。
認知症が進行して、感情の抑制力が失われたり、自分の考えが思うように表現できないもどかしさなどから、腹を立てて、攻撃的になる。	介護者が冷静になって対応しましょう。上手に話題を変えながら、注意を別の方向に持っていか、とりあえずその場を離れ、一定の時間、間をおいて本人が忘れるのを待つといった工夫が有効なことがあります。
夜起きだして、ウロウロと歩いたり、 ^{おび} 怯えたり、興奮して錯乱状態になる。	何時間かで落ち着くので、無理やり静かにさせないで、しばらく様子を見て、気が紛れるように他の部屋に誘ったり、お茶を飲むようにしたりしましょう。
生ごみや輪ゴムなど、食品でないものを食べようとする。	食べられないものや危険なものを目の届かないところ、手の届かないところにしまうようにします。

デイサービスなどでは、認知症のお年寄りの症状を緩和するために、回想法・園芸療法・造形療法・音楽療法などのさまざまな治療法をおこなっています。お気軽にご相談ください。

問 大安庁舎 地域包括支援センター T 78-3520 F 78-1114